



2020年12月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月7日

上場会社名 理研コランダム株式会社

上場取引所 東

コード番号 5395 URL <http://www.rikencorundum.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 増田 富美雄

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 石川 和男

TEL 048-596-4411

四半期報告書提出予定日 2020年8月7日

配当支払開始予定日

2020年9月8日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 2020年12月期第2四半期の連結業績(2020年1月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第2四半期	1,884	14.7	26		78		85	
2019年12月期第2四半期	2,208	7.9	53		1		17	

(注) 包括利益 2020年12月期第2四半期 10百万円 (%) 2019年12月期第2四半期 109百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第2四半期	92.40	
2019年12月期第2四半期	18.53	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第2四半期	5,848	4,196	71.7
2019年12月期	5,990	4,234	70.7

(参考) 自己資本 2020年12月期第2四半期 4,196百万円 2019年12月期 4,234百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期		30.00		30.00	60.00
2020年12月期		30.00			
2020年12月期(予想)				30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,600	16.4	73		44	33.3	173		187.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年12月期2Q	922,128 株	2019年12月期	922,128 株
期末自己株式数	2020年12月期2Q	54 株	2019年12月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年12月期2Q	922,082 株	2019年12月期2Q	922,175 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、[添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」]をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあります。このところ持ち直しの動きが見られます。個人消費は緊急事態宣言の解除に伴い持ち直し、設備投資は引き続き弱含み、輸出は下げ止まりつつあり、生産は減少しているものの一部に持ち直しの兆し、企業収益は急速に減少していますが、企業の業況判断は厳しさは残るものの改善の動きが見られます。先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを段階的に引き上げていくなかで、各種政策の効果もあって、持ち直しの動きが続くことが期待されますが、感染症が内外経済に与える影響に十分注意する必要があります。また、令和2年7月豪雨等の経済に与える影響や金融資本市場の変動に十分留意する必要があります。

このようななか、当社グループの売上については、研磨布紙の建材関連向け製品は第2四半期連結会計期間以降新型コロナウイルスの影響があったものの若干の減少に留まりましたが、研磨布紙の金属加工用および精密加工用製品の受注が減少、また、得意先の加工工程変更により研磨材のハードディスクの表面加工用の採用停止が響き、売上高は1,884,246千円（前年同期比14.7%減）となりました。

また利益面においては、売上高の減少により粗利が減少しましたが、塗装工程の品質の安定化や人件費を中心に費用が減少したことから営業利益26,380千円（前年同期は営業損失52,989千円）となり、経常利益については持分法適用関連会社である中国の合弁会社「淄博理研泰山涂附磨具有限公司」の持分法による投資利益が前年同期とほぼ同額であったことから78,393千円（前年同期は経常損失583千円）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は85,201千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失17,091千円）となりました。

セグメントの概況は、以下のとおりであります。

(研磨布紙等製造販売事業)

当社グループの中核事業である研磨布紙等製造販売事業の当第2四半期連結累計期間の業況は、建材関連向けの製品は第2四半期連結会計期間以降新型コロナウイルスの影響があったものの若干の減少に留まりましたが、研磨布紙の金属加工用および精密加工用製品の受注減や研磨材のハードディスク表面加工用の採用停止により減少し、売上高は1,488,664千円（前年同期比15.7%減）となり、売上高の減少により粗利が減少しましたが、塗装工程の品質の安定化や人件費を中心に費用が減少したことから、営業損失19,308千円（前年同期は68,410千円の営業損失）となりました。

(OA器材部材等製造販売事業)

当社グループにおいて事務機器に組み込まれる紙送り用各種ローラー部品の受注生産をしているOA器材部材等製造販売事業の当第2四半期連結累計期間の業況は、得意先の休業や生産調整により売上高は減少し259,559千円（前年同期比16.0%減）となり、営業利益は売上高の減少から53,245千円（前年同期比17.6%減）となりました。

(不動産賃貸事業)

イオンリテールストア株式会社に賃貸しております理研神谷ビルの賃貸収入やその他の賃貸収入の売上高は136,024千円（前前年同期比1.4%増）となり、営業利益は前期に理研神谷ビルの減損損失計上により減価償却費負担が減少したことから112,994千円（前年同期比18.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

〈財政状態の分析〉

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ141,664千円減少し、5,848,013千円になりました。これは主に、たな卸資産が60,221千円増加しましたが、売上高の減少により売上債権が101,654千円減少、株価の下落により投資有価証券および親会社株式が75,214千円減少、人民元に対する円高により在外関連会社の純資産評価の減少により関係会社出資金が31,768千円減少したことによるものであります。

負債は前連結会計年度末に比べ103,799千円減少し、1,652,175千円になりました。これは主に、仕入高の減少により買掛債務が66,500千円減少、投資有価証券および親会社株式の時価評価減少により繰延税金負債が35,003千円減少したものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ37,865千円減少し、4,195,839千円になりました。これは主に、利益の計上により利益剰余金が57,537千円増加しましたが、株価下落によりその他有価証券評価差額金が52,274千円減少、人民元に対する円高により為替換算調整勘定が42,273千円減少したことによるものであります。

〈キャッシュ・フローの状況〉

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べて39,135千円（10.0%）増加し、429,192千円となりました。

また、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローは、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、120,143千円（前年同期は111,822千円の獲得）となりました。

資金増加の要因としては、税金等調整前四半期純利益の計上75,016千円、非資金取引である減価償却費71,560千円、売上債権の減少101,041千円が主なものであります。

一方、資金減少の要因としては、非資金取引である持分法投資利益42,430千円、たな卸資産の増加60,817千円、仕入債務の減少34,127千円が主なものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は、67,442千円（前年同期は58,710千円の支出）となりました。

資金減少の要因としては、有形固定資産の取得による支出67,482千円が主なものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は、10,362千円（前年同期は20,276千円の支出）となりました。

資金増加の要因としては、短期借入金の借入による増加70,000千円が主なものであります。

資金減少の要因としては、長期借入金の返済による支出45,600千円、配当金の支払額27,454千円が主なものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日発表の「連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、引き続き情報収集に努め、業績への重大な影響が見込まれる場合には、速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	390,057	429,192
受取手形及び売掛金	※ 986,181	※ 884,527
商品及び製品	346,746	365,878
仕掛品	430,625	512,679
原材料及び貯蔵品	182,312	141,347
その他	15,304	51,340
貸倒引当金	△5,105	△5,171
流動資産合計	2,346,120	2,379,791
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,686,496	3,693,343
減価償却累計額	△2,908,079	△2,920,925
建物及び構築物（純額）	778,417	772,418
機械装置及び運搬具	1,853,892	1,520,716
減価償却累計額	△1,599,005	△1,267,743
機械装置及び運搬具（純額）	254,887	252,973
その他	852,145	795,784
減価償却累計額	△420,441	△392,547
その他（純額）	431,704	403,236
有形固定資産合計	1,465,009	1,428,628
無形固定資産		
投資その他の資産	60,024	54,356
投資有価証券	403,173	337,269
親会社株式	397,390	388,080
関係会社出資金	1,268,974	1,237,205
退職給付に係る資産	22,605	—
その他	37,232	22,734
貸倒引当金	△10,850	△50
投資その他の資産合計	2,118,525	1,985,239
固定資産合計	3,643,557	3,468,222
資産合計	5,989,677	5,848,013

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※ 787,762	※ 721,262
短期借入金	230,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	81,200	69,200
リース債務	10,666	13,054
未払法人税等	3,618	5,401
その他	154,415	173,247
流動負債合計	1,267,661	1,282,164
固定負債		
長期借入金	116,000	82,400
リース債務	34,285	30,974
繰延税金負債	272,775	237,773
退職給付に係る負債	—	3,832
長期預り金	51,952	1,952
資産除去債務	10,000	10,000
その他	3,300	3,080
固定負債合計	488,312	370,011
負債合計	1,755,973	1,652,175
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	89,675	89,675
利益剰余金	3,276,037	3,333,574
自己株式	—	△124
株主資本合計	3,865,712	3,923,125
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	310,955	258,681
繰延ヘッジ損益	509	△222
為替換算調整勘定	56,528	14,255
その他の包括利益累計額合計	367,992	272,713
純資産合計	4,233,704	4,195,839
負債純資産合計	5,989,677	5,848,013

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
売上高	2,207,919	1,884,246
売上原価	1,856,567	1,511,058
売上総利益	351,352	373,188
販売費及び一般管理費	※ 404,341	※ 346,808
営業利益又は営業損失(△)	△52,989	26,380
営業外収益		
受取配当金	15,630	12,475
持分法による投資利益	43,923	42,430
為替差益	—	877
その他	3,935	4,183
営業外収益合計	63,488	59,964
営業外費用		
支払利息	2,583	2,165
売上割引	5,262	5,242
為替差損	2,102	—
その他	1,135	543
営業外費用合計	11,082	7,951
経常利益又は経常損失(△)	△583	78,393
特別損失		
固定資産除却損	—	3,377
特別損失合計	—	3,377
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△583	75,016
法人税、住民税及び事業税	2,086	1,654
法人税等調整額	14,421	△11,839
法人税等合計	16,508	△10,185
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△17,091	85,201
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△17,091	85,201

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△17,091	85,201
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△51,955	△52,274
繰延ヘッジ損益	△282	△732
為替換算調整勘定	△4,660	△4,030
持分法適用会社に対する持分相当額	△34,831	△38,243
その他の包括利益合計	△91,728	△95,278
四半期包括利益	△108,820	△10,077
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△108,820	△10,077
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△583	75,016
減価償却費	81,525	71,560
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△12,375	26,437
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△113	△10,734
修繕引当金の増減額(△は減少)	2,557	-
受取利息及び受取配当金	△15,700	△12,546
受取商標使用料	△3,223	△2,551
支払利息	2,583	2,165
為替差損益(△は益)	1,104	199
持分法による投資損益(△は益)	△43,923	△42,430
有形固定資産除却損	308	3,377
売上債権の増減額(△は増加)	△31,116	101,041
たな卸資産の増減額(△は増加)	24,303	△60,817
仕入債務の増減額(△は減少)	120,123	△34,127
破産更生債権等の増減額(△は増加)	312	10,787
その他	△21,550	△18,567
小計	104,230	108,811
利息及び配当金の受取額	15,700	12,710
利息の支払額	△2,282	△2,140
商標使用料の受取額	2,134	595
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△7,960	166
営業活動によるキャッシュ・フロー	111,822	120,143
投資活動によるキャッシュ・フロー		
関係会社出資金の回収による収入	5,969	-
有形固定資産の取得による支出	△64,849	△67,482
貸付金の回収による収入	170	40
投資活動によるキャッシュ・フロー	△58,710	△67,442
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	100,000	70,000
長期借入金の返済による支出	△86,441	△45,600
自己株式の取得による支出	△262	△124
配当金の支払額	△27,349	△27,454
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△6,224	△7,184
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20,276	△10,362
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4,202	△3,205
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	28,635	39,135
現金及び現金同等物の期首残高	415,404	390,057
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 444,039	※ 429,192

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

①簡便な会計処理

(i) 棚卸資産の評価方法

当第2四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基盤として合理的な方法により算定する方法によっております。

(ii) 繰延税金資産及び繰延税負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	研磨布紙等 製造販売事業	OA器材部材等 製造販売事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,764,885	308,930	134,104	2,207,919	—	2,207,919
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,764,885	308,930	134,104	2,207,919	—	2,207,919
セグメント利益又は損失(△)	△68,410	64,624	95,259	91,472	△144,461	△52,989

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△144,461千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に連結財務諸表提出会社本社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	研磨布紙等 製造販売事業	OA器材部材等 製造販売事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,488,664	259,559	136,024	1,884,246	—	1,884,246
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,488,664	259,559	136,024	1,884,246	—	1,884,246
セグメント利益又は損失(△)	△19,308	53,245	112,994	146,931	△120,550	26,380

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△120,550千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に連結財務諸表提出会社本社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。